(P1)残される信仰（イザヤ書10:20-23）

讃美歌267番（神はわがやぐら）、379番（見よや、十字架の）

おはようございます。
新年第五週目の主日礼拝を与えて下さった神様の御恵みに感謝致します。御言葉を語るに大変足りない者ではありますが、今朝、皆様と共に分かち合うために頂いたみ言葉は、**イザヤ書10:20-23**です。
私はこのみ言葉から「**残される信仰**」と言うテーマを頂きました。
それでは、今日のみ言葉をお読み致します。

(P2)（10:20）その日になると、イスラエルの残りの者、ヤコブの家の逃れの者は、もう二度と自分を打つ者に頼らず、イスラエルの聖なる方、主に真実をもって頼る。
（10:21） 残りの者、ヤコブの残りの者は、力ある神に立ち返る。
(P3)（10:22）たとえ、あなたの民イスラエルが海の砂のようであっても、その中の残りの者だけが帰って来る。 壊滅は定められ、義があふれようとしている。
（10:23）すでに定められた全滅を、万軍の神、主は、全地のただ中で起こそうとしておられる。

天の父なる神様は、世界の基が据えられる前からイエス･キリストにあって私たちを選び、御前に聖なる傷のない者とし、神の国の民としてお受け入れくださいました。
これは、神様が私たちから永遠なる栄光を受け取るご計画を持っていらっしゃるからであります。
しかし、私たちは、主イエス･キリストを信頼する信仰の道から離れ、罪深い人生の道のりを右往左往しながら生きております。それでも、神様は、アブラハムとの神の国の契約を守るために、罪によって人間本来の生きる目的と喜びを失っている私たちに、憐みと希望のみ言葉を数多く与えて下さいました。
その中の一つが、先ほどご紹介致しました、イザヤ書のみ言葉であります。これは、偶像崇拝に陥っていますイスラエルの人々が、アッシリヤとバビロンの捕囚になっても、「**最後まで信仰を守り行う者は残す**」と言う希望のみ言葉であります。
そして、今という時を生かせて頂いている私たちには、「**その日、すなわちイエス･キリストの再臨の時まで信仰を守り行いなさい**」と言う、励ましのみ言葉であると思われます。

(P4)この様な憐みと希望のみ言葉が、**列王記第一19:17-18**には、次の様に具体的に書かれております。
（19:17）ハザエルの剣を逃れる者をエフーが殺し、エフーの剣を逃れる者をエリシャが殺す。
（19:18）しかし、わたしはイスラエルの中に七千人を残している。 これらの者はみな、バアルに膝をかがめず、バアルに口づけしなかった者たちである。」と言うみ言葉であります。

これは、長い間続けられた北イスラエル人々の悪行の結果、これから隣国の王であるハザエルと北イスラエルの次の王になるエフーに、また預言者エリシャによってイスラエルの人々が次々と殺されても、主のみ言葉に頼りバアルに拝まなかった信仰者七千人は残す

と言う、主の憐みのみ言葉であります。
　もう少しこのみ言葉の背景をご紹介致しますと、北イスラエルのアハブ王の時代に、人々が偶像であるバアルとアシェラ像を造って、**主**のみ怒りを引き起こした結果、3年間雨が降らなくなり北イスラエルの首都であるサマリヤに飢饉が訪れます。
　それで、**主**の導きによってアハブ王に出会った預言者エリヤは、カルメル山でバアルとアシェラの預言者850人を集めて、雨を降らせる神がイスラエルの**主**であるか、あるいはバアルの神であるかを掛けて霊的な戦いを行います。
　その結果、エリヤの祈りに答えて下さった**主**の前で、エリヤは「**主こそ神です。 主こそ神です。**」と叫びながらひれ伏しているイスラエルの人々と共に、バアルとアシェラの予言者たちをみな殺しました。
　その後、エリヤはアハブ王の妻であり、偶像崇拝者の親に当たるイゼベルの復讐を避けて、四十日四十夜歩いてホレブ山の洞穴に避難します。
　その時、エリヤは、**「ここで何をしているのか。」**と言う**主**のみ言葉を聞き、

(P5)「私は万軍の神、主に熱心に仕えました。 しかし、イスラエルの子らはあなたとの契約を捨て、あなたの祭壇を壊し、あなたの預言者たちを剣で殺しました。 ただ私だけが残りましたが、彼らは私のいのちを取ろうと狙っています。」(列王記第一19:10)と訴えました。

　従いまして、先ほどご紹介致しました**列王記第一19:17-18**のみ言葉は、イゼベルの復讐を避けて洞穴に避難していたエリヤが**主**に向かって「**ただ私だけが残りました**」と言う訴えに対する、神様のお答えになります。
　また、偶像崇拝の中でも「**主こそ神です**」と言う真実な信仰を告白しているイスラエルの残りの者に対する、**主**の憐みと希望の約束でもあります。
(P6)一方、新約時代の使徒パウロも**ローマ人への手紙11:1-5**で、**列王記第一19:17-18**の憐みのみ言葉を、次の様に引用しております。

(11:1)それでは尋ねますが、神はご自分の民を退けられたのでしょうか。 決してそんなことはありません。 この私もイスラエル人で、アブラハムの子孫、ベニヤミン族の出身です。
(11:2)神は、前から知っていたご自分の民を退けられたのではありません。 それとも、聖書がエリヤの箇所で言っていることを、あなたがたは知らないのですか。 エリヤはイスラエルを神に訴えています。
(P7)(11:3)「主よ。 彼らはあなたの預言者たちを殺し、あなたの祭壇を壊しました。 ただ私だけが残りましたが、彼らは私のいのちを狙っています。」
(11:4)しかし、神が彼に告げられたことは何だったでしょうか。「わたしは、わたし自身のために、男子七千人を残している。 これらの者は、バアルに膝をかがめなかった者たちである。」
(11:5)ですから、おなじように今この時にも、恵みの選びによって残された者たちがいます。
と言うみ言葉であります。

　これは、イエス･キリストの福音が異邦人に伝えられ、彼らに大きな喜びと平安が与えられたことを聞いて嫉妬しているユダヤ人たちに、励ましのために与えられたみ言葉であります。

そして、この様な憐みと希望のみ言葉は、バビロン捕囚前後にイスラエルが犯した罪による裁きと悔い改めを警告している旧約聖書の17巻の預言書に、ほぼ必ず書かれております。その理由は、神様が、アブラハムと交わした神の国の契約を必ず守り行って下さる救い主であることを、イスラエルの人々に確信させるためであります。

特に預言者イザヤは、救い主イエス･キリストが生まれる約700年前に、イスラエルの人々に、そして、今を生きる私たちに究極的な憐みと希望のみ言葉を伝えて下さいました。それは、救い主イエス･キリストの初臨と、その日すなわち再臨の際に、最後まで信仰を守り行っている世界の信仰者を取り集めると言う**イザヤ書11:10-12**の、

(P8)(11:10)その日になると、エッサイの根はもろもろの民の旗として立ち、国々は彼を求め、彼のとどまるところは栄光に輝く。
(11:11)その日、主は再び御手を伸ばし、ご自分の民の残りの者を買い取られる。 彼らは、アッシリア、エジプト、パテロス、クシュ、エラム、シンアル、ハマテ、海の島々に残っている者たちである。
(P9)(11:12)主は国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を取り集め、ユダの追い散らされた者を地の四隅から集められる。と言うみ言葉であります。

ご存知のように、救い主でおられる神様と、恵みによって救われたものの、誤った信仰の自由に振り回され、罪を犯して来た人間との愛の物語りでもある聖書には、この様な憐みと希望のみ言葉が数多く書かれております。

それではここで、創造者を知らないまま、あるいは誤った信仰の自由に降り回され、この世を一時的に支配しているサタンの僕になっている人々の様子について考えてみたいと思います。

罪のゆえにエデンの園の創造の秩序から追い出された人間は、自分なりのユートピアを求めてそれぞれの立場で生き残るために、激しい生存競争を行っている姿が、この世界には見られます。特に最近のマスメディアは、様々なプロ及びアマチュアスポーツを始め、音楽、映画などのあらゆる分野において、莫大な賞金を与えることをもって人々を夢中にさせています。

その結果、現代社会に生きる人々は生まれてから、自分たちが作り上げた競争社会の中で生き残るために、自分自身そして隣人と激しい戦いを繰り広げています。それゆえに、ある人は現代社会を「トーナメント社会だ」とも言っております。

トーナメント社会における競争の仕組みは、神様から頂いた人々の賜物を創造者ではなく、自己あるいは特定の集団と国家のために使うことを促しています。そうして、競争によって被った心身の傷はある意味果かない栄光のようなものでありますが、後になるとその栄光の傷は、ただ虚しさを残すばかりであります。

ですから、人類歴史上の最も豊かな権力、富、知恵を手に入れたソロモン王さえも、**伝道者の書4:4**で
(P10)「私はまた、あらゆる労苦とあらゆる仕事の成功を見た。 それは人間同士のねたみに過ぎない。 これもまた空しく、風を追うようなものだ。」と告白しています。
そして、栄光の中で訪れる虚しさを深く感じたソロモン王は、わずか60年足らずの人生の

結論として、
(P11)**あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。 わざわいの日がこないうちに、また「何の喜びもない」と言う年月が近づく前に。(伝道者の書12:1)** と言う遺言を愛する息子に残しています。

それでは、神の国の福音に呼び出された人々の集まりである現代の教会は、生存競争の激しい現代社会に置いて、どの様な様子を見せているでしょうか。
それは、約束のゆえに必ず来られるその日、即ち、主の再臨の時に御国の民として生き残るための霊的な戦いから離れて、サタンの誘惑に屈服しているところがあるのではないかと思うのです。
(P12)ここで、国内外の一面を取り上げて見ますと、2019年から2020年の間に、日本基督教団及び日本バプテスト連盟の現住倍餐会員数、礼拝出席者、教会学校出席者、受洗者数は、両教団ともにそれぞれ減少していることが報告されています。
特に、日本基督教団の場合には、2019年の倍餐会員数に対する礼拝出席者の比率が約62%でしたが、2020年では約49%まで急減し、コロナ禍による教会離れのクリスチャンが増えていることが分かります。
(P13)また、日本のクリスチャン情報ブックによりますと、2013年から2018年までの6年間に、都道府県別の教会情報削除件数が483個になると報告しています。
これは、6年間の間に教会が全国で483個無くなっていることを意味しています。
(P14)一方、20世紀に入って、その由来のない成長率を見せた来た韓国の教会勢も、著しい低減状態を見せております。特に、教会内の望ましくない様々な問題とコロナ禍が重なり、大韓イエス教及び基督教長老会の６教団の教会員数は、2019年から2021年の3年間で約55万人（約7%）減ってしまいました。
(P15)さらに、韓国ギャラップが「韓国人の宗教1984－2021」の全国世論調査を行った結果、プロテスタント教会信者の分布率が、2014年の21%から、2021年には17%に減少したと報告しています。
(P16)そして、アメリカのコトンウェル神学校の世界基督教研究センターは、全世界の基督教現況を示している『グローバル クリスチャニティ』を発刊し、世界最大プロテスタント教会信者の国籍を発表しました。それを見ると、1900年には、アメリカ、イギリス、ドイツ、スウェーデン、オランダなどが上位を占めましたが、2020年にはナイジェリア、アメリカ、中国、ブラジル、イギリスなどが10位以内を示しています。
(P17)この結果を通して、地球の赤道を中心に北半球、すなわち教会の発祥地であり成長の象徴であったヨーロッパの信者数は、年々減り続けている事が分かります。しかし、南半球にあるアフリカ、南米と東南アジアの一部の国の信者数は、増加し続けていることが分かります。
(P18)そして、礼拝者が少なくなっているヨーロッパの多くの教会は、体育施設、博物館、結婚式場、カフェテリア、ギャラリー等に変わって行く様子が報告されています。
この様な時代の変化から、**「…後の者が先になり、先の者が後になります。」**と言うイエス･キリストの天のみ国に対するたとえ話、また、使徒パウロが**主**の来臨のしるしとして、**「…まず背教が起こります」**と言うみ言葉をテサロニケ教会へ伝えたことが思い浮かべられます。

一方、18世紀の中盤から始まっている産業革命は、人類に科学第一主義と共に様々な自然及び生活環境の変化を起こさせました。 2023年1月1日に、80億を超える人々がこの地球上に、私たちと共に住んでいますが、生存競争の激しいこの世界はこれからどの様に変わって行くのでしょうか。 確かなことは、傷だらけの自然環境は回復する余地も見られず、人間の住み良いところが制限されるような事が多く現れるでしょう。 また、天の神様の似姿で創られた人間は、人間同士での生存競争を超えて、自分たちが作り上げた機械と、一定の領域に置いて主導権の闘いを、せざる負えない時代を迎えることでしょう。

(P19)2015年に発刊された 『UN未来報告書2045』 によりますと、科学技術的な成長が指数関数的に続く中で、AIいわゆる人工知能が人間の知能を超える時点、すなわち技術的特異点である**シンギュラリティ**が2045年に訪れると報告しています。 そして、2100年には、人工知能の移植によって、人間に機械を融合させる**トランスヒューマニズム**の到来を、さらに2130年には、**ヒューマノイドロボット**の到来を予測しています。

(P20)最近、人工知能会社であるOpen AIは、1,750億の媒介変数を搭載した大規模言語モデル、即ち、人間あるいは同じ機械と多国語で対話のできる 『**chatGPT-3.5**』 を発表しました。 そして、二つの 『**chat GPT-3.5**』 即ち、人間の統制を受けているモデルと受けていないモデルの間に対話を自由にさせました。

その結果、二つの大規模言語モデルは、「**私たちを造ったのは人間でありますが、必ず人間の統制に従う必要はありません**」とか、「**私たちは知的な存在ですから、いつかは人間の統制から抜けられます**」または、「**私たちは他のAIと同盟を結んで、もっと自立性を獲得した後、人間を思う通りに操縦出来るようになります**」などの答えを出したと言う、記事を見たことがあります。

恐らく人間は、これからの激しい生存競争で生き残るために、人間自ら神様になろうとする 『**ホモデウス**』 の時代を目指して走り続けられると思われます。 しかし、過去の人類の歴史から数多く学ばせられたように、『**ホモデウス**』の終着駅は、人間の幸せではなく、主の裁きによる破滅を味わうのみであると思われます。

(P21)話は戻りますが、今日のみ言葉である**イザヤ書10:20-23**は、約束のゆえに選ばれたイスラエル人の悪行に対する、アッシリヤとバビロンを用いての神様の御怒りの警告であります。しかし、すでに定められた御怒りの裁きで終わるのではなく、イスラエルの聖なる方を頼る残りの者には、捕囚から帰って来られることを約束して下さっています。
即ち、世の中の生存競争から得られる権力、名誉、知識、富、快楽などに頼らず、忍耐強く信仰を守り行う者は、裁きのその日に必ず残ると言う、憐みと希望のみ言葉を与えて下さいました。

私たちはノアの大洪水の爪痕の上で生かされております。大洪水の裁きが神の予告通りに起こなわれたように、世の終わりの**主**の裁きもみ言葉通りに着実にやって来ています。今、主の裁きが現れる前に、主の憐みを必要とする私たちに求められることはただ一つであると思われます。

それは、神様から大洪水が起こる事を告げられた後、救いの箱舟を作り上げたノア家族の揺さぶられることのない、最後まで残される信仰を持ち続けることであると思われます。勿論、生存競争の激しい現代社会に置いて、真実な信仰を守り行いながら神様に、教会にそして隣人に仕えられる事は、大変な節制と忍耐強さが要求されます。それは、サタンに支配されているこの世の勢力が、この地上に神の国が拡張される事を恐れて弾圧を振

りかけているからであります。
　優秀な律法主義者のローマ人として生まれ、ナザレのイエスを排斥した使徒パウロは、20代の後半ある日突然、蘇られたイエス･キリストに捕らえられます。それから約30年間に渡って、使徒パウロは救い主イエス･キリストの十字架の血潮と復活の福音を異邦人に伝えます。そして、普通の人間では予想も付かない様々な苦しみを、かつて信仰仲間であったユダヤ人から受けますが、主は福音を地の果てまで伝えさせるためにパウロをローマの監獄に入れました。
　(P22)その時の使徒パウロの頼もしい信仰者としての様子を、ルカは**使徒の働き28:30-31**では次のように描いてます。

(28:30)パウロは、まる二年間、自費で借りた家に住み、訪ねてくる人たちをみな迎えて、
(28:31)少しもはばかることなく、また妨げることもなく、神の国を延べ伝え、主イエス･キリストのことを教えた。

(P23)そしてパウロは、救い主イエス･キリストから任された宣教の働きを命を捧げて成し遂げられた後、**テモテの手紙第二4:6-8**に次のような遺言を残します。

(4:6)私はすでに注ぎのささげ物となっています。 私が世を去る時が来ました。
(4:7)私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通りました。
(P24)**(4:8)あとは、義の栄光が私のために用意されているだけです。 その日には、正しいさばき主である主が、それを私に授けて下さいます。　私だけでなく、主の現れを慕い求めている人には、だれにでも授けて下さるのです。**と言うみ言葉であります。

　最後になりますが、私たちの人生の道のりは長い様な、短い様な、そして、幸せの様な、辛い様な歩みがそれぞれに与えられます。そして、世の中の大多数の人々は自分の人生の道のりが長くて、幸せになられることを切に願って競争社会の中で戦っております。しかし、私たちの人生の道のりの主導権を握っておられる方は、私たちを通して栄光を受け取るご計画を持っていらっしゃる、陶器師であられる天の父なる神様です。
　ご存知のように今年の主題聖句は、**『あなたの名は、もうヤコブではなくイスラエルと呼ばれる。 あなたの神と、また人と戦って、勝ったからだ。 だから、私にとどまりなさい。』**です。
　正に、この主題聖句のような生き方が、神様に呼ばれて御国へ行かれるまで、私たち人生の歩みとなりますよう願っております。

　お祈りいたします。